

あかね台自治会

これからの在り方について

持続可能で、次の世代につながる自治会へ

働き世代向け

忙しい時期でも、無理なく
関われる形を考えます

シニア層向け

長く続けられ、顔が見える
つながりを大切にします

2025年度 これまでの取り組みと実績

✓ 口座振替の導入

→ **260世帯**以上が利用開始



✓ コミュニティバスの運営を開始

→ 高齢世帯・移動困難な方の
足として定着しつつある



働き世代向け:班長や役員の負担を減らす仕組みは、すでに動き始めています

シニア層向け:実際に生活の助けになる取り組みから進めています

自治会は、何のために存在するのか

自治会の役割は、

住民一人ひとりが、余計な心配をせずに、
安心して暮らせる環境を、地域として保つことです。

災害や防犯、生活インフラ、情報の共有。

個人や行政だけでは支えきれない部分を、
地域で補うために存在しています。自治会は、

「頑張る人を集める組織」でも

「行事をやること自体が目的の組織」でもありません。
必要な機能を、無理なく、続けられる形で維持すること。



そのうえで、大切にしたいこと

もし自治会があることで、
顔を知っている人が少し増えたり
子どもや高齢の方を、自然に気にかけて合えたり
いざという時に「声をかけられる場所」があったり
そんな関係が生まれたら、
とても嬉しいことだと思っています。



現在の自治会運営が抱える課題

- 人数に依存した労働集約型の運営 
- 一部の人に負担が集中 
- 働き世代が参加しづらい構造 

働き世代向け: **やりたくても続かない仕組み**になっています

シニア層向け: **頑張れる人に頼り切る形**になっています

あかね台の人口・世帯構成

人口：約2,000人

世帯数：約780世帯

要介護・支援認定者数：市内最多レベル

80代以上：約470人

470人

70代：約325人

325人

60代以下：約1,200人弱

1,200人弱

働き世代向け：人が多いから回るは、もう前提にできません

シニア層向け：支え合いが必要な方が確実に増えています

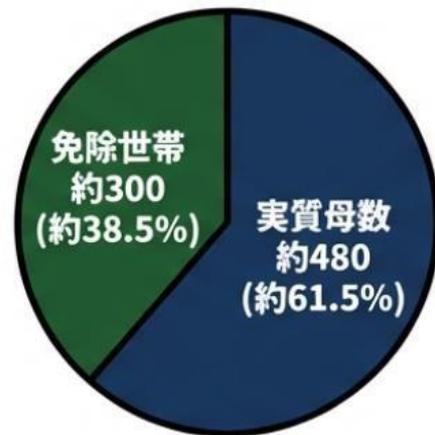
役員を担える世帯は、実際にはどれくらいか

全世帯:780世帯

80歳以上中心の免除世帯:約300世帯

実質的な母数:約480世帯

世帯構成割合



注記:70代前半でも就業率は高く、時間に余裕があるとは限らない

働き世代向け:実際に回している人数は、思っているより少ない

シニア層向け:無理を前提にしない設計が必要です

役員が回ってくる頻度の違い

現状(2025年度)

体制:57名

周期:約**8**年に1回

実感:子育て・仕事の忙しい
時期に必ず当たる



新体制(2027年度)

体制:22名

周期:約**22**年に1回

実感:一世代に一度程度



働き世代向け:何度もやる から一度で済む へ
シニア層向け:ムリのない形へ

防災・防犯を、日常の中で強くする

防災防犯部を新設
拠点リーダーを設置し、
要支援の方をサポート
散歩ついでの「見せる防犯」



働き世代向け：特別な時間を取らず、生活の延長で参加
シニア層向け：日頃の顔見知りか、一番の安心です

子ども会との連携による世代間交流

宿題を一緒に見る

得意なことを教える

子どもと接点を持つ機会を増やす

・・・いずれも可能性として提示 今後検討

働き世代向け:子どもを地域で見守る環境づくり

シニア層向け:経験や知識が、自然に活かされます



ゆるサポ(ゆるやかな協力)の仕組み

役職ではない

継続前提ではない できる時に、できることだけ

例

イベント当日だけ手伝う



散歩パトロール



得意分野のサポート



働き世代向け:断れる前提だから、参加しやすい

シニア層向け:無理のない関わり方を大切にします

班長の仕事の変化(Before / After)

※班長会が無い月は
自分のタイミングで
会館に来て回覧準備

 **班長会**： 月1回 → 2ヶ月に1回

 **紙の回覧**： 月2回以上 → 月1回

 **回覧準備**： 総務 → **セルフピックアップ** ※

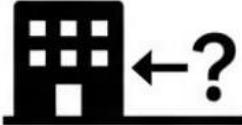
 **会館清掃**： 班長 → **完全外注(年12万円)**

 **催事**： 班長主体 → **有志+ゆるサポ**

働き世代向け： 全部やる人ではなくなります

シニア層向け： 判断とつなぎ役に集中できます

会館を、次の世代も使える場所へ

- 建て替えはこれから考える ←?
- 多世代が使える会館を目指す 
- プロジェクトとして検討開始 

 働き世代向け: **仕事や子育て**と両立できる場に

 シニア層向け: **日常的に集える**場所を残します

自治会を、無理なく続けられる形に

- 自治会は、暮らしの安心を、住民同士で支えるための仕組みです
ただ、役割が重くなりすぎていました
- そのため今回、無理が一部の人に集中しない構造へ変える決断をしました
- 役割を絞り、仕事を減らし、ゆるサポや子ども会との連携で
関わり方を選べる形にします
- 続けられるからこそ、防災・防犯や世代間のつながりなど、
大事なところを、しっかり強くできます
- 自治会運営側としては、
住んでいて安心できる状態を、長く保つことを目指しています

働き世代の方へ：自治会は、暮らしを支えてくれる側が変わります
シニア層の方へ：無理なく、安心して長く関われる自治会にします

よくあるご質問（Q&A）

Q. 22名で本当に回るんですか？

A. 清掃外注や口座振替で「班長業」を減らすため、22名で回る設計です。

Q. 若い人にまた負担が集中しませんか？

A. 役が回る周期を約22年まで長くし、「やらせ過ぎない構造」に変えます。

Q. デジタルが苦手な人は置いていかれませんか？

A. 紙が必要な世帯は自治会側で把握し、紙でのやり取りを続けます。

Q. ゆるサポって、結局やる人が限られませんか？

A. やりたい人の想いを大事にしたいと思っています。